

名 称	デ	一	タ
都営地下鉄10号線(新宿-東大島間)建設工事 〔② 東京都, ③ 5% 完成(昭和47年12月末日現在)〕	事業実施箇所: 東京都渋谷区・同新宿・同千代田・同墨田・同江東	事業主体: 東京都交通局	工事期間: 昭和46年5月~51年3月(予定) 事業予算: 1281億6000万円(電気施設費・車両費を含む) 施工業者名: 五洋建設・鴻池組・飛鳥建設
帝都高速度交通営団8号線建設工事 〔② 東京都, ③ 55% 完成(昭和48年2月1日現在)〕	事業実施箇所: 東京都板橋区・同中央区	事業主体: 帝都高速度交通営団	工事期間: 昭和45年7月~50年3月(予定) 事業予算: 1494億円(電気施設費・除車両費を含む)(うち、土木工事費810億円) 施工業者名: 熊谷組・大林組・鹿島建設
横浜市高速度鉄道1号線建設工事 〔② 横浜市〕	事業実施箇所: 横浜市港南区・同南区・同中区	事業主体: 横浜市交通局	工事期間: 昭和43年11月28日~47年11月28日 事業予算: 277億1000万円(電気費・車両費を含む) 施工業者名: 清水建設・佐藤工業・熊谷組
名古屋市高速度鉄道第4号線金山-新瑞橋間新設工事 〔① 名古屋市地下鉄4号線建設工事, ② 名古屋市熱田区・同瑞穂区, ③ 54% 完成(昭和47年12月31日現在)〕	事業実施箇所: 名古屋市熱田区-瑞穂区	事業主体: 名古屋市	工事期間: 昭和46年11月~48年12月(予定) 事業予算: 246億円(電気・車両含む) 延長: 5.6km 施工業者名: 間組・熊谷組・大林組
大阪市高速電気軌道第2号線東梅田-都島間建設工事 〔① 地下鉄谷町線東梅田-都島間延長工事, ② 大阪市北区・同大淀区・同都島区, ③ 65% 完成(昭和48年1月末日現在)〕	事業実施箇所: 大阪市北区・同大淀区・同都島区(東梅田-都島)	事業主体: 大阪市交通局	工事期間: 昭和44年12月24日~49年3月(予定) 事業予算: 235億円(電気費・車両費を含む) 延長: 3.19km 設置駅: 中崎町・天神橋筋6丁目・都島・3駅,(ホーム幅)・5.3~8.5m, 8m, 8m,(ホーム長)・160m, 160m, 160m 施工業者名: 大林組・佐藤工業・鉄建建設
京王帝都電鉄京王線新宿-笹塚間線増工工事 〔② 東京都新宿区西新宿, ③ 30% 完成(昭和48年2月1日現在)〕	事業実施箇所: 東京都新宿区西新宿-同渋谷区笹塚	事業主体: 線増工/日本鉄道建設公団(受託・京王帝都電鉄)・立体化工事/東京都(受託・京王帝都電鉄)	工事期間: 昭和45年12月~50年3月(予定) 事業予算: 263億円(電気施設費を含む・ただし、車両費を除く) 延長: 3.9km(うち、トンネル2.6km) 停車(留)場: 新・新宿駅/島式1面ホーム, 有効長210m, 幅員約10m・新・初台駅/上下式ホーム, 有効長210m, 幅員3.7m・新・幡ヶ谷駅/相対式ホーム, 有効長210m, 幅員3.7m・笹塚駅/島式2面ホーム, 有効長210m, 幅員8~10m 施工業者名: 大成建設・清水建設, 東急建設
相模鉄道横浜駅改良工事 〔② 横浜市, ③ 65% 完成(昭和48年2月1日現在)〕	事業実施箇所: 横浜市北幸1丁目5番地	事業主体: 相模鉄道(株)	工事期間: 昭和44年3月1日~48年9月30日 事業予算: 317億円(うち、土地・1億3540万円, 新相鉄ビル建物・15億円, 新相鉄ビル設備・6億4500万円, 鉄道高架化工事・1億7200万円, 補償その他・7億1760万円) 施工業者名: 大林組・日立製作所・東急建設
環状6号線と京浜急行線との立体交差工事 〔② 東京都〕	事業実施箇所: 東京都品川区北品川1丁目-同南品川2丁目	事業主体: 東京都・京浜急行	工事期間: 昭和46年12月~49年12月 事業予算: 47億2000万円 施工業者名: 熊谷組・大林組・東急建設

## 都 市 計 画

昭和47年度の都市計画事業の特色は、公園事業、下水道事業の事業費の伸びに示されており、対前年度当初予算に対し、前者は1.71倍、後者は1.19倍となっている。これに対し、街路事業は1.15倍、土地区画整理事業は1.30倍、市街地再開発事業は1.33倍となっている。とくに、下水道事業は街路事業の事業費総額を上回り、2158億円となった。

公園事業については、都市公園整備5か年計画の策定により、昭和60年度までに都市計画区域内人口1人あたり公園面積9m<sup>2</sup>の水準を確保することを長期の目標として、整備の重点を、① 都市環境改善のための基幹公園の積極的整備、② 公害・災害対策としての緩衝緑地等の緊急整備、③ 広域レクリエーション需要に対処するための大規模公園の整備などにおいている。

名 称	デ	一	タ
吹田市都市計画南吹田第1土地区画整理事業 〔② 吹田市, ③ 95% 完成(昭和48年2月15日現在)〕	事業実施箇所: 吹田市	事業主体: 吹田市	工事期間: 昭和39年度~47年度 事業予算: 26億9600万円 面積: 126.4ha 都市計画街路: 闊次正雀線ほか3線・幅員16~22m・延長4159m 区画街路: 幅員4~22.5m・延長30001m 公園: 7か所・39,354m <sup>2</sup>
長崎国際文化都市建設計画宮の下土地区画整理事業 〔② 長崎市, ③ 98% 完成(昭和48年2月15日現在)〕	事業実施箇所: 長崎市	事業主体: 長崎市	工事期間: 昭和39年度~47年度 事業予算: 11億1915万円 面積: 10.24ha 都市計画街路: 出島町西山町線・幅員27m・延長636m・他1線 区画街路: 1~14号線・幅員6~13m・延長計1073m 公園: 宮の下公園・約1500m <sup>2</sup>
山形都市計画山形駅前土地区画整理事業 〔② 山形市, ③ 92% 完成(昭和48年2月15日現在)〕	事業実施箇所: 山形市山形駅前	事業主体: 山形市	工事期間: 昭和39年7月14日~49年3月31日(予定) 事業予算: 22億38万円 面積: 17.6ha 都市計画街路: 山形停車場桜町線ほか6路線・幅員12~30m・延長1847m 駅前広場: 10732m <sup>2</sup> 区画街路: 1~27号線・幅員4~8m・延長2762m 公園: 3か所・3000m <sup>2</sup>

概 要 ・ 特 色
<p>地下鉄 10 号線は、新宿—東大島間 (14.5 km) の全線にわたり、昭和 51 年開業をめぐり本格的施工段階に入った。とくに隅田川の横断は、都営地下鉄初の沈埋工法を採用し、江東地区軟弱地盤区域を含み、駅部を除いては全域にわたりほとんどシールド工法で施工する。車庫については、江東地区防災再開発計画区域内に大規模な地下層の鉄筋コンクリート構築を施工中であり、地上は非常時の地域住民避難広場を築造し、土地の最も有効利用をはかっている。</p>
<p>地下鉄 8 号線は板橋区成増から練馬区向原で西武池袋線と相互直通運転し、池袋駅で東武、国鉄、西武、各線の下をとり各線と連絡する。護国寺下では複線シールドを採用、飯田橋では既設 5 号線下を経て外堀の中に入り、中央線市ヶ谷駅で国鉄および 10 号線と連絡する。その後シールドにて麹町、永田町、警視庁から外堀の下を通過し、都庁横を経て有楽町で国鉄山手線と立体交差し、東銀座 1 丁目に至る 20.136 km の路線である。</p>
<p>1 号線は、湘南台 (藤沢市) 一戸塚—上大岡一関内を結ぶ 18.6 km の路線で、このうち上大岡—伊勢佐木長者町 5.6 km を完成し、昭和 47 年 12 月 16 日から営業を開始した。この区間は、土丹層の起伏が著しく、いきおい軟弱な沖積層の深さが多様であり、また、一部河川を埋立てて行なった工事であったため、開削工法のほか、ブラインドシールド工法等の特殊工法を数多く採用した。</p>
<p>地下鉄 4 号線は、現在営業中の 2 号線の一部と結んで将来市内の環状線を形成する路線である。今回建設する金山—新瑞橋間は 2 号線と金山駅で分岐して市東南部の拠点新瑞橋へ向うもので、西高蔵・神宮西・伝馬町・堀田・妙音通・新瑞橋の 6 駅 (仮称) を新設する。本工事では国道部分 2.9 km で共同溝との同時建設を行なうほか、金山・内浜の 2 区間でシールド工法を採用した。本区間の建設により、ベッドタウンとして開発の進む市東・南部と都心とを結ぶ強力なパイプが築かれることになる。</p>
<p>2 号線は、現在東梅田—天王寺間 7.3 km を営業し、1, 3, 6 号線とともに南北方向の交通の幹線となっている。この路線の北伸工事として、大阪市北東部の都島区・旭区ならびに守口市の人口密集地区と都心部を結ぶ東梅田—都島—守口間の工事が行なわれており、そのうち都島までを昭和 49 年春 4 両編成・2 分 30 秒間隔で開通予定である。工事は旧淀川横断部の潜函工法 (236 m) を除いて、全線開削工法で施行している。</p>
<p>京王線新宿—調布間線増幅工事は東京都市計画高速鉄道第 10 号線として計画決定されている。都営地下鉄 10 号線は、一般国道 20 線 (甲州街道) 下の新・新宿駅で接続し、相互直通運転を行なう。第 1 期工事として新宿—笹塚間約 3.9 km を着工することになり、そのうち新宿—幡ヶ谷間は甲州街道下に建設され、約 2.5 km が現在施工中である。新・新宿駅は地下 5 層・3 径間の函型鉄筋コンクリートラーメン構造である。新・初台駅—新幡ヶ谷駅間は首都高速道路 4 号線と同時に施工となるため、首都高速道路公団へ委託している。新幡ヶ谷駅を過ぎてから現在線の連続立体化事業と同時に施工を行ない、並列 4 線高架となり、笹塚駅の手前で現在線に取り付ける。</p>
<p>沿線の開発ならびに二保川—平塚間の新線の部分開通に伴う横浜駅への旅客流入を含め横浜駅西口は平日 65 万人、休日 80 万人の来街者が集中する。よって、既存の駅施設ではあまりに狭隘であり、西口の再開発を包含する多目的なスーパーブロック新相鉄ビル (延床面積 20 万 m<sup>2</sup>) を新築し、1, 2 階に駅施設を収容、有効長 210 m、3 線構型ホーム 4 面、他社線との直接連絡を可能とさせ、輸送力増強ならびに混雑緩和をはかるものである。</p>
<p>本工事は、東京都市計画事業として環状 6 号線と京浜急行との立体交差をしようとするものである。場所は民家の密集地であり、在来の高架施工法では用地問題等いろいろの障害が考えられたため、諸官庁の指導により昭和 46 年暮に直上高架施工機械を完成させ、現在約 300 m を施工している。この機械は、前部の作業台と後部のトラス台に分れており、橋脚組立て、橋桁架設をする。1 サイクル標準 (スパン 12.0 m) を 7 日～8 日で施工している。</p>

街路事業においては、① 都市内の主要幹線街路の整備、② 平面交差点の立体化、都市鉄道の高架化事業、③ 都市高速道路、高速自動車国道に関連する街路の整備、④ 歩行者の安全確保のための施設整備、⑤ 鉄道駅、トラックターミナル、空港、港湾等の交通施設と連絡する街路、新幹線および地下鉄の建設に関連する街路などの整備に重点をおいている。

土地区画整理事業では、公共団体施行について、① 大都市、地方中心都市などの市街化傾向の著しい地域における幹線街路等の整備に関連する事業、② 山陽新幹線、新東京国際空港関連、鉄道高架化関連地区の事業、組合施行については、今後新たに市街化が予想される新市街地についての事業に重点をおいている。

市街地再開発事業も、継続事業も含め 30 数地区の事業が行なわれた。

これら昭和 47 年度の重点施策、あるいは事業の傾向としては、住民の環境保護に対する意識の向上もあって、いわゆる生活環境整備事業に対して重点がおかれはじめてきている。

概 要 ・ 特 色
<p>本事業施行地区一帯は、大阪市の北部に位置し、住宅地としてのすぐれた立地条件から、急速に開発が進みつつある。本事業は無秩序な市街地化を防止し、良好な新市街地を形成する目的で、先行的に行なわれる土地区画整理事業の典型的な一例である。とくに幹線道路については、大阪都市圏の環状道路の一部を形成しており、万国博関連として、早期に完成されたものである。</p>
<p>本事業は、都市中心部の密集市街地において、再開発を目的とした土地区画整理事業の好例である。用地取得の困難な地区であるため、都市計画街路の拡幅用地を区画整理の換地手法によって生みだし、さらに別途に建築特別融資制度を創設し、移転補償金と融資金を財源とし、計 134 戸を収容する面積 24 075 m<sup>2</sup> の耐火構造建築物を建築し、快適な商店街の形成と都市美観上の改善とをはかった点に特色がある。</p>
<p>本事業は、地方中心都市の駅前既成街地に施行された土地区画整理事業の例で、駅前広場の大幅な拡張、都市計画道路の拡幅を基本としている。本地区では、これらに加えて、別途事業として、防災街区造成事業をあわせて施行し、駅前地区の再開発をはかり、土地の高度利用を可能としたところに特色がある。</p>

名 称	デ ー タ
北九州都市計画境川土地区画整理事業 〔② 北九州市, ③ 100% 完成 (昭和 47 年 9 月 20 日現在)〕	事業実施箇所: 北九州市小倉区・同戸畑区 事業主体: 北九州市 工事期間: 昭和 32 年度~47 年度 事業予算: 16 億 5 000 万円 施行面積: 211 ha 都市計画街路: 日明渡船場線ほか 5 線・延長 7 473 m 区画街路: 幅員 11~4 m・延長 4 万 3 844 m 公園: 14 か所・総面積 13 万 6 380 m <sup>2</sup> 公共用地率: 施行前 13%・施行後 26%
千葉市源町土地区画整理事業 〔② 千葉市, ③ 77.6% 完成 (昭和 48 年 2 月 20 日現在)〕	事業実施箇所: 千葉市 事業主体: 源町土地区画整理組合 工事期間: 昭和 44 年度~48 年度 事業 予算: 10 億 4 000 万円 施行面積: 41 ha 都市計画街路: 稲毛町茂呂町線ほか 1 線・延長 640 m 区画道路: 幅員 12~4 m・延長 11 万 578 m 公園: 4 か所・総面積 12 万 600 m <sup>2</sup> 公共用地率: 施行 前 11%・施行後 27%
奈良国際文化観光都市建設事業・平城 土地区画整理事業 〔① 平城ニュータウン, ② 奈良市, ③ 25.7% 完成 (昭和 47 年 12 月 31 日現在)〕	事業実施箇所: 奈良市佐紀町・同歌姫町・同山陵町・同押熊町の各一部 事業主体: 日本住宅公団 工 事期間: 昭和 45 年度~50 年度 事業予算: 116 億 9 000 万円 都市計画決定: 昭和 43 年 12 月 28 日 (45 年 4 月 28 日変更) 都市計画事業の承認: 昭和 45 年 10 月 13 日 面積: 348.7 ha 計画人口: 4 万 3 000 人 (120 人/ha) 都市計画街路: 1.3.7 (幅員 24 m)・2.1.6 (幅員 24 m), その他 2 線を予定している 公共用地率: 施行前 1.45%・施行後 26.29%
渡辺通線街路改良工事 〔② 福岡市, ③ 90% 完成 (昭和 48 年 1 月 20 日現在)〕	事業実施箇所: 福岡市中央区渡辺通り 1~同 5 丁目 事業主体: 福岡市 工事期間: 昭和 44 年 5 月 1 日~48 年 3 月 31 日 事業予算: 10 億 7 000 万円 施工業者名: 松本組・新日本土木・オリエンタル コンクリート
総武本線市川一津田沼間線路増設工事 に伴う道路と鉄道との立体交差工事 〔① 総武線高架, ② 千葉県, ③ 97% 完成 (昭和 48 年 1 月 31 日現在)〕	事業実施箇所: 国鉄総武線江戸川一津田沼間 事業主体: 千葉県 工事期間: 昭和 43 年 12 月 28 日 ~48 年 3 月 31 日 事業予算: 154 億 2 000 万円 計画決定: 昭和 43 年 12 月 28 日, 44 年 5 月 26 日変更 事業決定: 昭和 43 年 12 月 28 日, 44 年 5 月 26 日変更 協定: 昭和 44 年 2 月 28 日 変更協定: 昭和 47 年 2 月 18 日 高架方式: 線増高架 (現在 2・線増 2) 施工業者名: 前田建設工 業・西松建設・大林組
大野川歩行者専用道 〔② 大阪市西淀川区大和田町一大阪西 淀川区御幣島東 1 丁目, ③ 21.6% 完 成 (昭和 48 年 1 月 30 日現在)〕	事業実施箇所: 大阪市西淀川区大野川埋立跡地 事業主体: 大阪市 工事期間: 昭和 46 年 4 月 1 日~ 50 年 3 月 31 日 事業予算: 12 億円 (うち, 築造/舗装/植栽/照明 <31~47×2 700 m>) 4 億 7 000 万 円・立体交差 6 か所/7 億 3 000 万円) 施工業者名: 森鋪道・東光園緑化・橋詰電気
県立観音崎公園 〔② 横須賀市〕	事業実施箇所: 神奈川県横須賀市鴨居 事業主体: 神奈川県 工事期間: 昭和 45 年 4 月~50 年 3 月 事業予算: 6 億 5 000 万円 面積: 77.2 ha おもな施設: 芝生広場・展望広場・トンネル 施工 業者名: 花崎産業・日産建設・日建工業
岩手県営運動公園 〔② 盛岡市〕	事業実施箇所: 盛岡市下野川 事業主体: 岩手県 工事期間: 昭和 39 年 4 月~48 年 3 月 事業予 算: 8 億 5 000 万円 面積: 23.7 ha おもな施設: 陸上競技場・ラグビー/サッカー場・テニスコート ・野球場・日本庭園・交通公園 施工業者名: 銭高組
福井少年運動公園 〔② 福井市〕	事業実施箇所: 福井市福町 事業主体: 福井県 工事期間: 昭和 45 年 4 月~48 年 3 月 事業予算: 2 億円 面積: 3.89 ha おもな施設: 冒険の森・遊園系コーナー・バランスポンド・ロー ラースケート場・擬木の森 施工業者名: 松田組・北陸造型美術・谷崎工業
山口県明治百年記念公園 〔② 山口市〕	事業実施箇所: 山口市吉敷 事業主体: 山口県 工事期間: 昭和 42 年 4 月~48 年 3 月 事業予算: 9 億 6 000 万円 面積: 51 ha おもな施設: ポート池・自由広場・徒渉池・沈床花壇・陸上競技場・ テニス/バレーコート・屋外休憩所・記念塔 施工業者名: 藤本組・多々良造園
都市計画街路事業新福光大橋 (橋梁整 備) 〔① 新福光大橋, ② 富山県福光町, ③ 100% 完成 (昭和 47 年 10 月 11 日現在)〕	事業実施箇所: 富山県新砺波郡福光町福光吉江中地内 事業主体: 福光町 工事期間: 昭和 46 年 10 月 15 日~47 年 10 月 11 日 事業予算: 7 500 万円 施工業者名: 川田工業・丸泉組
柏都市計画柏駅東口市街地再開発事業 〔② 柏市〕	事業実施箇所: 柏市常盤線柏駅前 事業主体: 柏市 工事期間: 昭和 45 年度~48 年度 事業予算: 92 億 6 000 万円 (うち, 建築施設工事費・65 億 6 600 万円) 施行面積: 1.9 ha 都市計画決定: 昭 和 46 年 1 月 権利変換計画決定: 昭和 47 年 3 月 建築施設等工事: 昭和 47 年 4 月~48 年 10 月 施工業者名: 大成建設

水資源・上水道  
下水道・工業用  
水道・環境衛生

水資源開発は、都市人口の集中、増大および産業の発展等により急激に増大する水需要に対処するため、多目的ダムの建設を主に河川水の広域的利用、水利用の合理化等をはかるものである。また、近年水資源の“量”のほかに“質”が問題となってきたり、今後とも十分な検討と対策が望まれる。

上水道 (簡易水道、専用水道を含む) の普及率は昭和 46 年末で 82.7% に達し、国民の公衆衛生の向上と生活環境の改善に寄与し、都市の産業基盤としても重要な役割を果たしている。給水量は年々増加しており、とくに生活様式の多様化、建築物の高層化によるビル用水、大都市周辺における住宅団地等の造成による都市化の影響が大きい。これらの給水量を確保するため、建設事業は依然として活発であり、昭和 47 年度は 4 146 億円が見込まれている。